

コミュニティ・ペーパー

発行所 行徳新聞社

# 行徳新聞

■創刊 昭和51年4月15日

〒272-0143 市川市相之川3丁目2番13号 一部105円  
株式会社 明光企画 TEL. (047) 396-2211 FAX. (047) 397-0325

行徳地区・世帯数=79,510  
人口=160,165 (平成23年7月1日現在)

JAFNA 日本生活情報紙協会加盟紙



## 「町のヘルス・ナビ・ステーション」 としての薬局を

旭日双光章受章 青野 博さん (75歳)

行徳地区に五店舗の薬局を展開する「アオノグループ」の会長、青野博さんが、本年度の春の叙勲で旭日双光章を受章した。

### 薬剤師が発信する健康情報

「薬事と医療は商売になつてはいけない」が持論。薬以外の日常雑貨品を置く薬局が増えた今も、アオノグループはあくまで、健康に不安を抱える人の話を親身になつて聞くことにこだわる。「薬局は、薬を売るのが目的ではなく、健康情報を発信する」町のヘルス

・ナビ・ステーション」にならなければと思うのです」  
病状に合わせた確かなアドバイスができるよう、高度な知識を持つ薬剤師の確保に力を注ぐ。また、近隣の医師を講師として招き定期的に研修を行うなどして、若い薬剤師を育てている。現在、同グループに在籍している薬剤師は約五十人。「医者と同レベルで話せる薬剤師を育てたい」という青野さんの下、日々勉強を続けている。

### 在宅医療の充実を

「人が死ぬときは畳の上がよい」と思っています。でも、今の医療制度や家族形態では、なかなか難しい。だから

### 地域の人の健康のために

利益よりも患者さんのために働く青野さんの原点は、昭和四十年、無医村に近かった行徳(相之川)で開いた小さな薬局。当時は保健所も遠く、乳幼児健診もままならなかった。自身も幼少期は病弱だったため、病人の気持ちがよく分かるとい

う青野さんは、私設の無料乳児健診を始める。「自費で薬局に医師を招き、乳児健診や育児相談を行いました」。これが近隣で評判になり、浦安からも患者が訪れた。

現在全国医薬品小売商業組合連合会会長だが、今年七十五歳で定年を迎える。「これからは白衣を着て、薬局の窓口に立つことが増えそう」と青野さん。地域の人の健康のために役立ちたいという思いは、これからも変わらない。

**プロフィール** 南行徳在住。東京薬科大学卒業後、塩野義製薬(株)勤務を経て昭和40年薬局開業。平成17年より(株)アオノ代表取締役会長。平成21年より全国医薬品小売商業組合連合会会長に就任。薬剤師のほか鍼灸師・中醫師の免許を持つ。

